

優秀賞

音にびん感なぼくのために

熊本県 大道小学校 五年
規矩 康友

これは、去年のお話です。

ぼくは、雷とかばく竹、ピストルの音などがとても苦手です。8月23日から24日にかけての大雨の夜は、雷の光と音、窓にたたきつける雨の音がこわくて、一晩中眠ることができませんでした。お母さんがそばにいても、ふとんの中にもぐりこみ、ヘッドフォンで音を消してもダメでした。結局、朝まで眠れず、その日の夏休みの学習会にも参加できませんでした。

でも、とっとうれしいことがありました。

1つ目は、運動会です。去年までの運動会では、開会式のときのばく竹の音がこわくて、別の場所にいました。徒競走^{とぎょうそう}のときもピストルから一番はなれた場所からスタートしました。

しかし、今年はぼくのことを心配して、体育の天津山先生や教頭先生、校長先生が話し合い、ばく竹は鳴らさず、ピストルも電子ピストルに替えてもらいました。おかげで、心配することもなく、運動会を楽しむことができました。

2つ目は、かくれるための部屋作りです。去年まで、梅雨^{つゆ}の時期の雷のなるときは、倉庫などの暗い部屋にかくれていました。しかし、それは不便だろうと、お母さんと担任の先生が話し合い、段ボール箱を利用して、かくれるための部屋を作ることになりました。

僕の苦手なことを学級のみんなに話すと、みんなが協力していっしょに作ってくれることになりました。段ボールカッターで窓をくりぬいたり、ガムテープでとめたりして、あっという間にでき上がりました。この部屋は、気持ちがこうふんしたり、しずんだりしたとき、だれでも使っていいことになり、「ひまわりみんなの家」と名づけました。みんなも喜んでくれて、出たり入ったりしました。ひみつきちのように、先生がもどってきたとき、かくれている人もいました。みんなが喜んでくれると、ぼくまでうれしくなりました。

3つ目は、雷がなった日のことです。帰りの会が始まるころ、トイレのそばのろうかにいたとき、突然空が光り、雷が鳴りひびきました。とたんにこわくなり、どうしていいのかわからないでいると、3人の友だちが教室から飛び出し、ぼくのところへかけよって来てくれました。

「だいじょうぶだよ。心配しなくていいよ。」

一人はぼくの耳を押さえ、一人はぼくの荷物を持ち、もう一人ははげまし続けてくれました。みんなの家にひなんし、しばらくすると、お母さんが迎えに来てくれました。ぼくは、ホッとしました。

この3つのできごとを通して、先生や友達のやさしさや親切に気づくことができました。人それぞれ、苦手なことがあると思います。ぼくもそんなことに気づいたら、みんながぼくにしてくれたように、親切ができたらいいなと思いました。